

2024年度学力試験問題の「出題意図」・「評価ポイント」について

小論文 【夜間主コース 学校推薦型選抜・社会人入試】 【昼間コース 帰国子女入試】		
出題意図		評価ポイント
<p>社会の中では、集団で行動することが少なくない。大学のゼミでグループ活動をする、大学を卒業し企業に就職して働く、などというのはその典型である。</p> <p>ところで、集団で行動すると他者の仕事に触発されて自らのパフォーマンスが向上することが考えられるが、他面でデメリットも指摘されるようになっている。それは、集団で活動することにより、各自が100パーセントのパフォーマンスを発揮せず、その努力量が低下するという、いわゆる「社会的手抜き」と呼ばれる現象の発生である。例えばグループ活動の準備を人任せにする、仕事時間中に遊んでいる、などという話は、聞き及びがある。社会的にみても、投票率の低下、不正な生活保護受給、スポーツの八百長などは、その典型といえる。</p> <p>社会的手抜きは、その集団によって、あるいは社会にとって少なからず損失を生む。そうであれば、社会的手抜きを回避し、各自のパフォーマンスを向上させる方策を模索することが、社会において求められているといえよう。</p> <p>将来の社会の担い手として、今のうちにこの問題に関心を持ってもらいたい。</p>	問1	<p>集団で作業をすることのメリットとデメリットを、本文の記述を踏まえて指摘できているかが問われる。</p>
	問2	<p>社会的手抜きの例を挙げ、それによる悪影響、社会的手抜きを防ぐ方法とその方法の合理性を指摘できているかが問われる。</p> <p>①～③の解答のポイントは、以下の通り。</p> <p>① 本文に記載のもの以外で、社会的手抜きの例を1つ挙げる必要がある。例えば、近年指摘される仕事でのインターネットの私的利用や、学生生活の中での試験のカンニングなどが挙げられる。授業内での共同作業をサボる、ゴミのポイ捨て、など身近な例を取り上げることもできよう。</p> <p>また、この社会的手抜きによってどのような悪影響が生じるか、具体的に指摘する必要がある。社会的手抜きが発生することで、いわゆる「腐ったリンゴ」現象が発生するおそれがある。これは1人の利己的な行動が、他者に伝播し、最終的に集団全体が利己的な人間の集まりになってしまう、という現象である。こうした現象が発生すると、集団の目標の達成は困難になること（授業内で共同で発表をする機会にあっても、目標としていた完成度に届かない、など）が容易に想定される。</p> <p>② ①で挙げた社会的手抜きによる悪影響を防ぐ方法を二つ提示する必要がある。例えば、(i) 個人のパフォーマンスを可視化する方法、(ii) 社会的手抜きの自覚を促す方法、が考えられる。</p> <p>③ (i) についていえば、社会的手抜きは、本</p>

	<p>文の通り、「集団の中では責任感が希薄になり一生懸命さが失われる」ことに由来する。そうであるとすれば、個人の目標と、それに対する努力の効果を可視化すれば、目の前の業務への責任感が高まることが期待される。また、(ii)については、そもそも社会的な手抜きをしている者が、手抜きをしていることを自覚していないという場合もありえ、その場合には、まず自覚を促さなければ改善の契機は得られない。そのためには、例えば、リーダーを通じて、手抜きが発生していることで目標達成が困難となっていることを周知し、集団の目標を再度共有するという方法が考えられる。</p>
--	--